

## 第 2 2 回田村市地域創生総合戦略会議 【結果】

|      |                                                                      |
|------|----------------------------------------------------------------------|
| 日時   | 令和 7 年 8 月 1 9 日（火） 午後 1 時 3 0 分～午後 3 時 2 0 分                        |
| 場所   | 田村市役所 3 0 1 会議室                                                      |
| 協議事項 | （１）田村市デジタル田園都市構想総合戦略について<br>（２）田村市デジタル田園都市構想総合戦略の令和 7 年度実施事業について     |
| 報告事項 | （１）過疎地域持続的発展計画の令和 6 年度事業実績について<br>（２）デジタル田園都市国家構想交付金の令和 6 年度事業実績について |

### 【概 要】

#### 1 開会

#### 2 委嘱状交付

#### 3 あいさつ

#### 4 協議事項

（１）田村市デジタル田園都市構想総合戦略について

（２）田村市デジタル田園都市構想総合戦略の令和 7 年度実施事業について

<資料 1 ～ 3 >

（凡例：● 委員、■ 市）

#### 基本目標 4 魅力的な地域をつくる

（委員）

- 施策 3 地域の防災力向上について、自主防災組織の現状値である 33 団体で、どの程度の市域が網羅されているのか。

（生活安全課）

- 自主防災組織は行政区毎に推進を進めている団体であり、市全体で 100 行政区ある内、複数の行政区で構成している自主防災組織もあり、57 行政区で組織がされている状況。世帯カバー率としては 44.3%。

（委員）

- 施策 4 生活環境の充実について、移動販売事業者から事業継続が困難という話があったということだが、その理由は。

（商工課）

- 市域が広く移動経費がかかる場所であり、1 日当たり単価、1 台当たり単価を増額し継続いただくための支援をしている。

（委員）

- 施策 1 教育の充実について、今後どう考えていくかが重要であると考えており、県内でも中高一貫教育に取り組む市もある中で、このような取組により教育リテラシーの高い世帯が移住してくるということも考えられる。将来的な小中高一貫教育等の考えがあるか伺いたい。

（学校教育課）

- 田村市では小中一貫教育を推進しており、中学校の教諭が小学校に入り授業の充実に努めている。中高一貫は県立と市町村立で難しい部分はあるが、考えていきたい。

（委員）

- 施策 1 教育の充実について、英語が使える人材育成事業の対象者 10 名ということだが、人数が多い場合はどのように選定をしているのか。

（学校教育課）

- 英語検定上位級を持っている生徒を優先的に選定する。同じ級の場合は抽選として決定する。今年度は 8 月に抽選会を行い、9 名のうち 7 名を抽選で選定した。

## 基本目標 1 地方に仕事をつくる

(委員)

- 施策 3 農業振興について、中古農業機械のマッチング事業について詳しく聞きたい。

(農林課)

- 県の補助金を活用し、離農した農家の農機具を新規就農者が活用できるようなマッチング事業を予定している。新規就農者の設備投資の負担を軽減するために今年度から開始するもの。

(委員)

- 施策 1 中小企業及び小規模事業者支援について、企業誘致ではどのような規模の企業を想定しているのか。また、新卒入社に苦勞している企業が多いと思うが、企業の課題を把握しているのか伺いたい。

(商工課)

- 大越町の産業団地には2.3haと1.2haの2区画が空いている状況であり、この規模にあった企業があれば良いと考えている。業種として雇用者数が多いため製造業に力を入れているが、こだわっているわけではない。採用の課題については、人が集まらなないと企業から話を聞いており、機会の創出や情報を提供する内容で支援をしていきたい。

(委員)

- 施策 1 中小企業及び小規模事業者支援について、新規雇用者を対象とした支援金の説明をいただいたが、都会に人が流れるのは賃金格差というのも要因である。年間15万円の支援金というのは2か年で15万円ということか。

(商工課)

- 本事業はエコノミックガーデニング事業により生まれた事業であり、年間15万円、2か年で30万円の支援である。15万円の根拠としては、近隣の本宮市を参考に金額を設定した。

(委員)

- 以前郡山市で経営者から話を聞いた際、採用に苦勞している話を聞いた。応募があっても採用後3年以内の離職率が高く、この期間に対する家賃補助等の支援を県としても考えてほしいとの意見を頂いたことがあり、近しい事業として勉強になった。

(委員)

- 田村市金融団として、中小企業の誘致と企業支援は力を入れている。市が情報を掴んだ早い段階で情報連携いただけると事業計画策定の段階で外部機関も含めた連携も可能。国や県の補助金、融資の支援も可能であるため、引き続き連携をお願いしたい。

## 基本目標 2 人の流れをつくる

(委員)

- 施策 1 移住・定住促進について、移住者が増加しているということだが、移住者の世代や理由を把握していれば教えていただきたい。

(企画調整課)

- 移住者の構成としては子育て世代と60代以降の高齢者が半々程度である。移住元は首都圏が主となっており、東京都渋谷に設置しているリクルートセンターが要因と考えている。また、移住の理由として、話を聞く限りでは、豊かな自然、首都圏から2時間程度のアクセス、田村市の人の良さを挙げていただいている。

(委員)

- 郡山市の知人から、カブトムシやクワガタの本が欲しいが手に入らないという話を聞いたがどのような状況かお伺いしたい。

(観光交流課)

- おそらく昆虫の絵本のことと思われるが、200部作成し市内の小中学校のほか市内図書館に設置している状況。元々一般に広く配布することは想定していないため、在庫がない状況。

(委員)

- 増刷する予定はないか。

(観光交流課)

- 個人的な配布は予定しておらず増刷の予定はない。市内図書館で閲覧いただくか、動画サイトのYouTubeでコンチューバーサミットという動画を配信しているのでご覧いただきたい。

(委員)

- 船引高校では、総合的な探究の時間の中で「田村市の良さや特徴がわかった」という声や「自分が出来ることをやっていきたい」という感想が多く、笑顔で取り組んでおり、探究学習を通じて地元への誇りや愛着が生まれていると感じる。教育は短期間で成果が出るものではないが、船引高校は地元への就職率が高い。また、大学で市外に出ても戻ってきてくれる可能性が高くなると考えている。地域の大人が継続的に生徒に関わってくれることの重要性を感じており、将来的な定住につながるものと考えている。
- 来年度からあぶくま柏鵬高校となるが、市内唯一の高校として引き続きご協力をお願いしたい。

(企画調整課)

- 令和5年から総合的な探究の時間に携わるようになり、地域への愛着醸成につながる活動だと感じた。昨年度からは船引高校にならい、船引中学校へ子ども版の総合計画を活用し、田村市の将来を考えてもらう授業を始めたところ。小中高連携のもと、地域の子どもの育成をしていきたいと考えているため、各学校の先生には引き続きご協力をお願いする。

(委員)

- 施策2 交流人口拡大について、市に来る観光客は日帰りが多いため、宿泊につながるような施策を進めていただきたい。宿泊することで経済効果が生まれる。また、積極的に商工会、金融機関との連携を図っていただきたい。

(観光交流課)

- 宿泊を強化することで経済効果が高まるのはご意見のとおり。時間はかかるが、市へ来訪する方が増えれば市で事業を実施したい方が増えていくと考えている。現在、インバウンド誘客事業を進めているが、あぶくま洞以外の施設への誘客につなげ、市内の滞在時間を増やすことで、市内事業者に触れていただけるようにしたい。今後も商工会等には協力をお願いする。

(商工課)

- 月に1回、商工会と打合せを実施している。ますますの連携をお願いしたい。

基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

(委員)

- 施策2 妊娠・出産支援について、大玉村では人口が増加しており、子どもが増えている。増えている理由があると思うので、そういった事例を参考にしたい。

(こども未来課)

- 当市の施策を他市町村と比較してみると、妊産婦医療費助成は全県的にも数件しか取り組まれていない事業であり、実施している市町村でも国保加入者しか対象としていないケースが多い。当市では加入保険に関わらず、活用頂ける事業である。国では出産費用を負担するような話も出ているが、市としては帝王切開等の際にかかる医療費の費用を軽減する支援をしている。このような制度の周知を、ポータルサイトを通じて行っていきたい。

(委員)

- 市としてどのようにデジタル技術を活用していくかが見えてくると良い。
- 市内観光は滞在型ではないという話があったが、北欧ではロングトレイルの取組がある。このような環境が田村市のような里山地域で出来れば、滞在型のスポットになるのではないかな。
- 森林組合では、移住者の受入をしており、移住者からは田舎の割に家賃が高いという話を聞くため、家賃補助をしている。古民家は、移住者が買い取ってリフォーム等するのではなく、市として戦略的に整備した上で移住者を募ることが良いのではないかな。
- 市では昆虫の聖地と言っているのでも、虫のコンテンツを動画投稿するのも面白いのではないかな。市役所だけではなく総合力で魅力を高めていただきたい。

(企画調整課)

- デジタル活用について、デジタル田園都市国家構想交付金を活用して実施している事業としては、昨年度2事業に取り組んだが、本交付金は様々な事業に活用することが出来る。まずは「書かない窓口」など、市民サービス向上につながる事業から始め、全庁的に推進を図っていきたい。

- 古民家を求める移住者は多く、特に都路地区には多い。まずは市の空き家バンクに登録していただき、移住者に提供することを継続していきたい。また、移住者と空き家提供者の条件が合わないケースが多いため、市として支援出来る内容を検討していきたい。

(観光交流課)

- 観光分野におけるデジタルの取組としては、桜のスタンプラリーと昆虫ブランディングの一環でゲーム(Roblox:タムコン)を制作した。今年度はより多くの方に気軽に楽しんでいたけようなゲームの制作を進めている。
- ロングトレイルの取組について、市が山開きに関わっている低山が市内に6つある。隣の山を組み合わせ、滞在時間を伸ばせるように考えていきたい。
- 昆虫の聖地を理解していただく取組としては、7名の昆虫サポーターの方がそれぞれYoutube動画を公開していただいている。また、旧カブトムシドームの跡地に昆虫採集フィールドを整備し、土日・祝日には市民も昆虫採集が出来る環境を整備した。

## 5 報告事項

- (1) 過疎地域持続的発展計画の令和6年度事業実績について
  - (2) デジタル田園都市国家構想交付金の令和6年度事業実績について
- <資料4～7>

## 6 その他

## 7 閉会